

令和3年9月16日
宮崎市小内海斜面崩壊

防災

事前の備え
迅速な活動
人命を守る

～九州の多様な災害リスク～

九州地方は、大型の台風襲来や前線豪雨による風水害、土砂災害、活発な活動が続ける火山の噴火災害などが発生しやすい国土となっています。加えて、南海トラフ巨大地震が発生した場合、地震・津波により九州東側沿岸部を中心に広域かつ甚大な被害が発生する恐れがあります。

宮崎河川国道事務所では、このような大規模災害時に、防災関係機関や地方公共団体等と連携し、円滑な防災対応により、被害の最小化を図れるよう様々な取り組みを行っています。

宮崎10号 342k26 下



宮崎市富吉 花見



平成29年10月11日 新燃岳噴火
◀ 路面清掃車にて降灰清掃支援



平成30年9月 台風24号
排水ポンプ車による排水作業



宮崎海岸 4k600カメラ

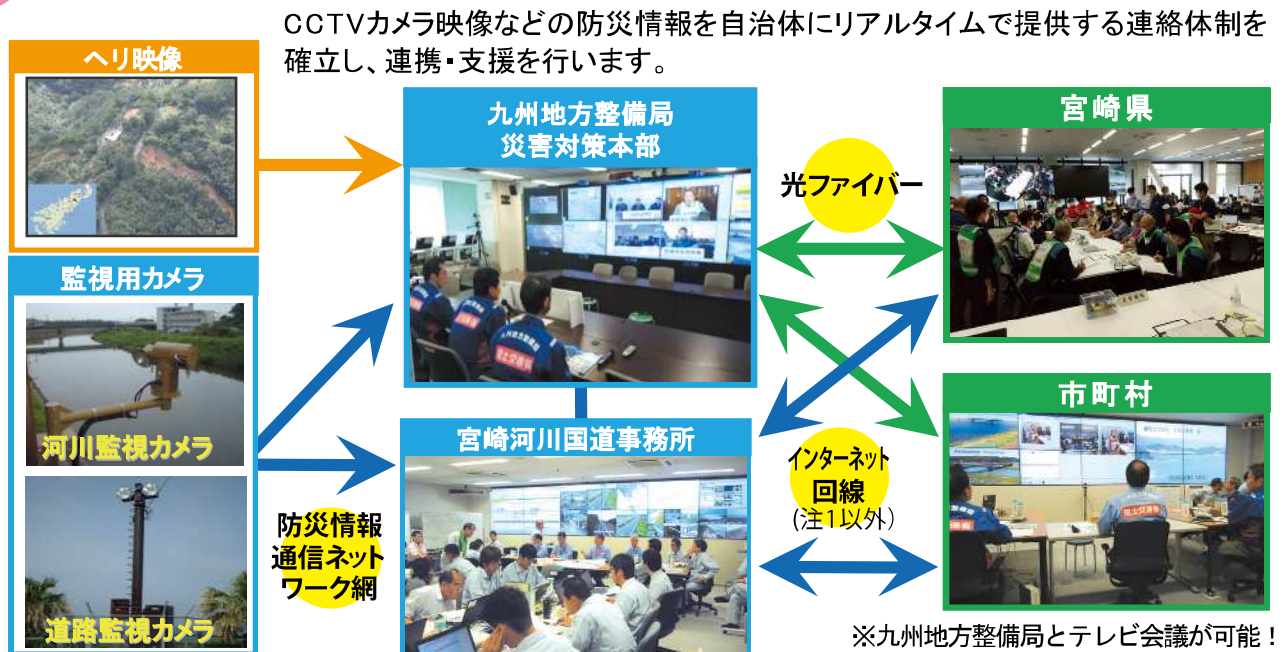
平成30年9月 台風24号
埋設護岸（サンドバック）の効果
（波浪による砂丘の侵食防止）

宮崎県宮崎市一ツ葉道路住吉TB付近

大規模災害時応援協定の締結

迅速な災害対応のため、宮崎河川国道事務所管内すべての市町村(6市9町1村)と応援に関する協定を締結し、災害に備えています。

①情報連絡網の構築



②リエゾンの派遣

リエゾンは、被災自治体と整備局の連絡窓口として、自治体からの情報収集、被害情報及び応援に係る情報提供、災害対策支援に係る調整などを行います。

注1 光ファイバー網締結自治体 (宮崎河川国道事務所管内)
宮崎市、都城市、木城町、日南市、高原町、国富町、高鍋町

リエゾンの活動状況



平成29年9月 台風18号 (宮崎県庁)



平成28年12月 鳥インフルエンザ(宮崎県庁)



平成28年10月 宮崎県総合防災訓練 (高鍋町役場)



災害対策用ヘリ「はるかぜ」からの映像を市防災会議で共有

※リエゾン【liaison】とは、フランス語で「組織間の連絡、連携」という意味。
災害時等において整備局職員を自治体へ派遣し相互の連絡調整を行います。

応援に関するおもな内容

- ① 情報連絡網の構築 ② 現地情報連絡員（リエゾン）の派遣
- ③ 施設の被害状況の把握 ④ 災害応急措置

③施設の被害状況の把握

大規模な自然災害に際して、TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)を派遣し、被災状況の把握や被災地方自治体の支援を行い、被災地の早期復旧のための技術的支援を迅速に実施します。

道路災害被災状況調査



令和2年7月豪雨

河川災害被災状況調査



令和5年7月豪雨

ドローン調査班による被災状況調査



令和4年9月 台風14号

④災害応急措置



▲照明車による支援
令和5年1月宮崎県鳥インフルエンザ
夜間の埋却作業を支援



▲排水ポンプ車による排水作業（令和元年7月 宮崎市）



▲災害対策車（照明車・排水ポンプ車）による排水作業
（令和元年8月 佐賀県）



▲災害対策車（路面清掃車）による清掃作業
（令和2年7月 熊本県人吉市）

防災用設備 ～宮崎河川国道事務所で保有しています～

Disaster Prevention and Relief

防災用の各種機械・電気通信設備の整備・維持管理を行い、災害に備えています。

対策本部車



災害現場で指揮などを行う現地の本部基地として威力を発揮します。

待機支援車



災害時、復旧活動を支援するために休憩、仮眠などができる設備を備えています。

照明車



災害現場の早期復旧のため、夜間作業・監視の支援を行います。

簡易遠隔操縦装置 (ロボQS)



2次災害の恐れがある危険な現場でバックホウを遠隔操作します。

路面清掃車



道路に溜まった土砂などを除去します。又新燃岳噴火による降灰時も清掃します。

橋梁点検車



地震等発生時の点検を行い、橋梁の異常や損傷等の有無を確認します。

衛星通信車



通信衛星システムを利用し、災害現場の映像などの情報を伝送します。

無線中継所



マイクロ回線を利用し、防災情報などの情報を中継します。

CCTVカメラ



河川水位・道路危険箇所など状況を監視・確認します。

排水ポンプ車



車両に水中ポンプを搭載し、浸水被害が発生した箇所での排水運転を行います。

排水機場



出水時に支川の水を本川へ排水します。

水門



出水時には水門を閉じて、本川の水が支川へ流れ込むのを防ぎます。

宮崎河川国道事務所のホームページでは、「通行止め情報」や「水位情報」をリアルタイムに提供しています。

パソコン・スマートフォンからアクセス

■ホームページアドレス <https://www.qsr.mlit.go.jp/miyazaki/>



命を守る緊急避難路(階段)の整備

津波浸水区域を高盛土構造で通過する一般国道220号において、津波災害時に地域住民が安全に避難することができる緊急避難路(階段)を整備しています。



国道220号 青島バイパス (避難訓練の様子)



国道220号 宮崎南バイパス

津波監視(海が見える)が可能なCCTVカメラの整備

河川や海岸、直轄国道の沿岸部等にCCTVカメラの整備を推進します。



国道220号 宮崎市小内海



国道220号 日南市猪崎鼻



大淀川河口付近 (宮崎港水門)

水門等の遠隔操作化、ゲート高速化の整備

津波の遡上に迅速に対応するため、水門等の遠隔監視操作システムの整備や水門の開閉装置改造(ゲート全閉操作に要する時間を約3分の1に短縮)を実施します。



津波対応管理施設 (山内川水門)

光ファイバー

遠隔で
監視・操作



宮崎河川国道事務所 防災対策室

〔山内川水門の場合〕ゲート全閉操作に要する時間を約17分→約5分に短縮
※ 施設によってゲート全閉操作に要する時間は異なります